

汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

1. 利用情報

教育機関名	国立大学法人 熊本大学
学部・学科名	工学部・社会環境工学科
コース名・講座名等	専門必修科目「エンジニアリング・コミュニケーション」
対象学年・受講者数	1 年次 77 名（講座等の履修登録者数を記載してください）
講座実施期間	2014 年 4 月 ～ 2014 年 9 月
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ <input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ <input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ <input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	1. 利用したコンテンツ <input type="checkbox"/> ①シラバス <input type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例 <input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド <input type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド <input checked="" type="checkbox"/> ③講義ノート <input type="checkbox"/> ⑧受講レポート <input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題 <input type="checkbox"/> ⑨ソースコード <input type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	2. コンテンツの利用方法について <input type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用 <input checked="" type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用 (利用範囲) 第12回「ロジカルシンキングの基本となる思考」、第13回「ロジカルシンキングの活用(コミュニケーション編-説明説明/説得する)」、第14回「ロジカルシンキングの活用(コミュニケーション編-文書を作成する)」 <input type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用 (改変範囲)

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
	単元と時間配分(1コマ= 90分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	* 短期集中講座の場合は、日単位で結構です	講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元でのコンテンツ利用の有無
1	社会人基礎力養成 コーチング(1)『目標設定』	個人演習	無
2	社会人基礎力養成 コーチング(2)『自分の強みを知り活かす』	チーム演習	無
3	社会人基礎力養成 コーチング(3)『自己アピール』	チーム演習	無
4	上手なプレゼン用スライドの作り方 『学会発表, 卒論・修論発表, ゼミ発表に向けて』	チーム演習	無
5	1年次合宿研修 (1泊2日)	チーム演習	無
6	1年次合宿研修 『研修成果の発表とレポート作成』	チーム演習	無
7	1年次合宿研修 『研修成果の発表とレポート作成』	チーム演習	無
8	熊本大学とは 『キャンパスに眠る地下埋蔵文化財見学』	個人演習	無
9	エンジニアリング・コミュニケーションとは 『コンセンサス形成とファシリテーション』	座学	無
10	自分の考えを主張する 『発表のための準備とテクニック』	座学	無
11	技術者に求められるパーソナルスキル 『ロジカルシンキング』	個人演習	有
12	単位が取れるレポートとは 『単位に結びつくレポート』	座学	有
13	理工系における実験の意義 『あなた方に実験を求めるのはなぜか?』	座学	無
14	ロジカルシンキングの活用 『コミュニケーション編-説明/説得する』	チーム演習	有
15	ロジカルシンキングの活用 『コミュニケーション編-文書を作成する』	チーム演習	有
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	グループワークによる目標達成のためにはミーティングなどによるコミュニケーションが不可欠だ。よって、グループ全体のコンセンサスを形成する必要があるが、既得体験による感覚的なものとしての習慣による意思決定ではなく、明確なテクニックが存在することを認識した上で、利用するノウハウを学ぶ。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	大学における『良い学び』を実践していただくため、新入学生に『自ら学ぶ』ことを認識させる。その上で、『社会人基礎力』、『コミュニケーションスキル』、そして『論理的思考』の重要性を説くと共に、今後4年間で充実させるため生活全般においての『学ぶ姿勢』を植えつけることが目的である。特に前提知識やスキル要件を要しない。
授業の進め方	自作資料を配布
産学連携で実施した場合の 企業支援内容 (該当の場合のみ)	産学連携とはいえないが、生涯学習開発財団認定コーチ2名を招聘(第1回～第3回分講師として)

2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	具体的な意見として、「パワーポイントや配布資料のおかげでわかりやすい授業内容だった。」「これからの社会で役立つことを多く学べてよかった。」「グループ活動がたのしかった。」が挙げられた。ただし、「授業の目的がわからない。」、よって「達成感」が沸かないという改善をもとめる意見もあった。授業によって得られたことが実感できる仕組み、自己評価できる仕組みが求められている。
教員の評価	習慣的には心得るも、論理的思考のテクニック(技術)を明快に解説した資料、またそれを利用した演習スタイルを提供してある。これは非常に有効であった。
今後の展望 (継続に向けた課題)	提供されたコンテンツ量は膨大で、全てを精査して授業に利用するか否かを決定する時間が取れなかった。内容はIT技術者向けとして記述されてはいるため、一部を改変すると共に、土木環境工学分野、あるいは公共サービス分野により密着したコンテンツへの改変や、あるいは新規作成が必要である。
その他(ご意見等)	